

第2回 第3次石狩市漁業振興計画策定委員会 議事録

日 時：令和3年11月8日（月） 14：00～16：00

場 所：石狩市役所 4階 401会議室

出席者：次のとおり

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
委員長	廣原 正康	○	委 員	清水周一郎	×
副委員長	和田 郁夫	○		鳴海 翔	○
委 員	蛭谷 勝浩	○		木村 誠	○
	伊藤 誠	○		釣本 明雅	○
	藤巻 信三	○		佐藤 公彦	○
	中井寿美子	×		野村 彩夏	○

事務局：企画経済部産業振興担当部長 本間 孝之
企画経済部林業水産課長 相原 真一
企画経済部林業水産課主査 佐藤 光弘

傍聴者：なし

- 議 事：1 開会
2 委員長挨拶
3 議題
(1) 第3次石狩市漁業振興計画に向けたアンケート調査の結果について
(2) 第3次石狩市漁業振興計画（素案）について
(3) その他

4 その他
5 閉会

議事録（要点筆記）

1. 開会

- ・省略

2. 委員長挨拶

- ・省略

3. 議題

（1）第3次石狩市漁業振興計画に向けたアンケート調査の結果について

【事務局 佐藤主査】

- ・今回実施したアンケートについて資料を基に説明。

廣原委員長

- ・アンケート結果についてご意見等はありませんか。

蛭谷委員

- ・実施期間が短いと感じます。回収が39件とのことですが地区別の人数をお知らせ願います。
（石狩地区16件 厚田地区9件 浜益地区14件）

和田委員

- ・現在の正組合員108名のうち法人を除いて107名なので、せめて7、8割の回収率なら漁業者の傾向もつかめるとは思うが、回収率が低すぎるというのが率直な感想です。

廣原委員長

- ・アンケートの追加等はしないのか。取りまとめ後の回収などはないのか。

相原課長

- ・現在も数件の提出は続いているが、今回の結果には反映していない。回収率は37%と予想より低い結果となったが、計画策定に向けては漁業センサスなども参考にしながら傾向としては一定程度参考に出るものと判断しました。

廣原委員長

- ・37%の回収率という事でこんな様なものかと思います。他にありませんか。

佐藤委員

- ・関係者にアンケートを行って37%の回収率では参考にならないと思います。100%近くまで回収率を上げ、より多くの意見を反映した結果でないと。過去のアンケートの設問と大きく変わらないなら、比較したものを提示した方が参考になると思うし取り組みによっての変化もつかめると思います。

廣原委員長

- ・事務局において次回までに前回との比較資料を提示願います。

相原課長

- ・アンケートについて新たな項目もあるが、共通の項目も多いので次回策定委員会で提示したい。

廣原委員長

- ・ほかにありませんか。なければアンケート結果の比較について次回の委員会で提示するよう事務局に願います。

(2) 第3次石狩市漁業振興計画（素案）について

【事務局 相原課長】

- ・素案については過日皆様に配付しています。説明は章ごとに行います。改定にあたり基本的にこれまでの計画の流れを継承し水産業施策振興の推進指針として位置づけ、
 - 1 「漁業振興計画の策定に向けて」では計画の体系や、計画期間、進行管理などを、
 - 2 「石狩市の漁業の現状」では漁業センサス、石狩湾漁協の資料等をもとに統計データの推移を示し、これを受けて現状とこれまでの計画の検証を行い、
 - 3 「課題の抽出と整理」の中で7つの体系に整理しています。

第1次と第2次の計画では、課題の抽出の項目の前にアンケートの詳細な内容と分析を記載していましたが、本計画では3「課題の抽出と整理」及び「漁業振興対策」の検討の中にアンケートの結果から見える傾向等を加味して整理し、アンケート結果は計画の別冊として整理したいと考えています。なお、今回提示した素案の中で項目番号や表やグラフの番号等の記載が修正されていない部分もあり、計画原案で修正したいと思います。

① 「漁業振興計画の策定に向けて」

計画の策定において石狩市総合計画や、産業振興関連の4計画との関係を示しています。本市漁業が目指す姿を「持続可能で魅力ある漁業」としてこれまでを継承し、そこに国際的な目標であるSDGsの視点を加え将来像を示しています。

計画期間については、これまでの5年を10年として、関係機関の臨機な情報共有や予算の要求協議、また補助申請実績報告等を通じて短期の活動を確認しつつ中間年を目途に計画評価を行い、情勢変化等に対応したいと考えています。

これまでの計画では、指標としての数値目標として漁業生産額を設定していましたが、目標設定のあり方も含めて委員の意見を伺いたいと思います。

廣原委員長

- ・計画の位置付けや期間についてご意見等はありませんか。
- ・2ページ枠内に記載の石狩市総合計画の前総合計画からの課題の中に海獣被害に対する制度創設とありますが、前回、藤巻委員から密漁対策についての話題が出ましたので総合計画に入れて頂きたいと思います。

相原課長

- ・ここに示しているのは現時点での石狩市総合計画の中での表記で、密漁対策については漁業振興計画の中でも位置づけて記載しており、今後改訂される市の総合計画への記載について検討したい。

蛸谷委員

- ・目指す姿の部分ですが、この目指す姿を掲げる前提でアンケート調査や漁業実態などの課題整理をした上で、今ここに記載があるものと思いますが、それらが足りないのであれば今回の策定委員会自体が拙速だったのではと思います。この目指す姿について、10年後例えば組合員の数で20人減る30人減るとなると、10年後は組合員が70人になりそれで漁業が成り立つのか、水産業がどうなるのかといった問題点が出てくるので、漁業後継者の対策や新規参入者を増やす対策がここに記載されるものと思います。そのとき、組合員が何名になり漁業生産がどうなるのかという事を考えると、単純にこの平均値をもって基準として5%アップとかの考え方にはならないのではないかと思います。組合員が多くいる市町村であればいろいろ捉え方はできると思いますが、石狩市の場合は1漁協ですのでもっと細かい話をしてもいいのではないかと思います。

相原課長

- ・目指す姿は大きな将来像を示したもので、それに向けた具体的な現状の評価については別の項目に載せており本項目はあくまでも大きな形での表現にしています。これまでの計画では計画期間中の平均値として漁獲量を示しているのので、素案にも同様な形で示しています。指標について数値として設定するのがいいのか、何らかの文言で例えば「生産額の増進を目指す」などとするのがいいのか苦慮しており委員各位の意見を伺いたいと思います。補足として目指す姿でも示していますが、数値として平均値等を載せることも考えられますが、事務局としては数値目標を示さなくても良いのではないかと考えています。漁獲量は平均値で目標設定しても各年毎の漁獲状況に左右されますので。

和田委員

- ・1の策定に向けての部分で、過去の実績ベースの資料を参考として載せるのは構わないと思いますが、目標生産額については必要ないと思います。

廣原委員長

- ・3ページの下のところは第2期の実績値の5%増に設定しますと明記していますが、増産を目指す程度で良いと個人的には思います。数値が独り歩きしてしまう心配もありますので。

相原課長

- ・これまでの計画の流れを継承した部分が多く数値として提示していますが、数値ではなく「生産額の増強を目指す」といったような表現にしたいと考えています。

廣原委員長

- ・数値目標は設定せず「増産に向けた努力をします」といった表現で理解していいですね。次回変更したものを示すという事で整理したいと思います。第1章について他にありませんか。なければ第2章「石狩市の漁業の現状」に入ります。

【事務局 相原課長】

②「石狩市の漁業の現状」

漁業センサス等の数字から見える状況を示しています。個別の推移については割愛しますが、特徴的な項目としていくつか説明します。8から9ページの組合員数と漁船数について緩やかな減少傾向が続いていますが、13ページの就業構成を見ると65歳以上の割合が減少しており、組合員が減少している中で若返りの傾向も伺えます。別冊アンケートの問11にもあります10年後の就業状況に対して10年後も変わらず漁業に従事しているとする回答比率の高さもその裏付けの一つと考えると、当面は急激に組合員が減少することはないと考えています。

また、14ページの後継者については平成30年のセンサスで後継者がいる割合は約15%でしたが、アンケートの問10を見ると後継者がいるの割合が20%強あり、後継者がいないはセンサスの85%に対し、アンケートでは60%程度と概ねアンケートもセンサスも同様の傾向と考えています。

また、11ページの漁獲金額別の経営体数について500万円未満の経営体数の占める割合が減少しているのに対し、500万円以上の経営体の占める割合が上昇しており、経営や水揚げの向上が伺えますが、アンケート問4の5年前の収入状況との比較では浜益区で減少しているとの回答が多く、地域差や漁業種類の影響も考えられ検証が必要と考えます。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響により水揚げ量や金額に大きな影響があった魚種もあり、経年変化の比較にはその辺も加味して判断する必要があると思います。

廣原委員長

- ・説明のありました「石狩市の漁業の現状」についてご意見等はありませんか。

蛭谷委員

- ・39件のアンケート回収結果が反映されているとの事で、センサスと比べ39名と少ない数字だがそれなりの方向性は反映されているという事で使っているのですね。石狩市の場合は石狩、厚田、浜益と地区ごとに漁業形態や年齢構成も違うと思うので、39名の回答を使って判断していいのかという疑問が残ります。

廣原委員長

- ・佐藤委員からもありましたが50%を超える数字には出来ないですか。7割8割は欲しいと思います。対象が107名なので回収に努めることも必要なのではないかと。

蛭谷委員

- ・批判をしているわけではないが、委員になった責任もあり発言しました。回収期間が短い中で39件の回収でゴーサインを出したというのが腑に落ちません。

相原課長

- ・この数値はセンサスや漁協のデータと比較して、39件ですがアンケートの結果と傾向が同じだったので使用しました。アンケート回収率については期待にこたえられていないという意見もあるので、限られた時間ではあるが回収率向上に向け努力したいと思います。

廣原委員長

- ・回収率向上に向けよろしく申し上げます。何点か追加してほしい部分があります。7ページ「石狩市の漁業」中で、岩礁域ではウニ、コンブ、アワビとなっていますが、石狩湾漁協の水揚げ額で上位に入るナマコを追加するべきではないか。8、9ページの組合員数や漁船隻数の図表について、平成18年度からとなっているが、石狩湾漁協の合併が平成16年であり平成18年からの理由が理解できない。

相原課長

- ・確認して整理したいと思います。

佐藤委員

- ・15ページ「漁業生産状況」の上から5行目、令和2年には平成16年以来の50トンを超える53トンの水揚げとなっていますが、5000トン、5300トンの誤りですよ。

相原課長

- ・単位が違っていますので訂正します。

廣原委員長

- ・19ページのニシン刺網漁業の文章について構成が違うと思うので提案します。8行目に（「日本海ニシン資源増大プロジェクト」によるニシンの種苗生産を実施してきました。）の後に（また、）とありますが、下から4行目の（尚、本プロジェクトでは）が続くべきだと思います。平成19年までのプロジェクトに並行して行われた生態や資源管理の試験研究の結果、厚田地区がニシンの産卵場として重要な位置にあることが明らかとなりました。平成20年以降は「日本海北部ニシン栽培漁業推進委員会」が発足し石狩湾漁協では73万尾を放流しておりますが、この表記では「日本海ニシン資源増大プロジェクト」が平成20年から73万尾の放流を行ったと誤って読みとられる可能性もあるので訂正をお願いします。また、開始された平成8年からニシンの漁獲量に増加がみられるようになったことから漁業者による資源保護に積極的に取り組んでいるとなっていますが、これも逆で、漁獲量が増えたから資源保護に取り組んだのではなく、資源保護に取り組んだ結果として資源が増えてきたので訂正をお願いします。

相原課長

- ・再度確認して訂正したいと思います。

廣原委員長

- ・ほかにご意見がなければ「3課題の抽出と整理」に入ります。

【事務局 相原課長】

③課題の抽出と整理

素案の33ページです。これまでの石狩市の漁業の現状を踏まえ、これまでの計画を継承した7項目の分類について対策の整理を行っています。第1回委員会で指摘のあった検証の補足について、別冊資料の「石狩市の水産」において毎年データを整理し経年変化の推移や取り組みの実績について一定の評

価を行っておりその評価を基本に整理しました。また、漁場環境の保全の部分では昨今のサンマやイカに代表される不漁に加え、太平洋側では北海道で初の赤潮が発生し多大な被害が生じるなどこれまで想定できなかった事象が発生する懸念もあり状況変化への注視を新たに加えています。

廣原委員長

- ・ただいま説明のありました「課題の抽出と整理」についてご意見等はありませんか。(1)から(7)について「検討が求められています。」や「継続が求められています。」との表記に変更したという事です。

相原課長

- ・冒頭の説明のとおりこの計画は指針としての性格を強調したいとの考えから、細かく示すのではなく求められる姿として表記しています。

廣原委員長

- ・具体的な提案ではなく大きな課題として捉えるという事です。他にご意見ありませんか。なければ「4 漁業振興対策」について説明をお願いします。

【事務局 相原課長】

④漁業振興対策

- ・漁業振興対策について、「3 課題の抽出と整理」の中で示した7項目について振興対策として整理しています。本計画は水産業の施策の指針としての性格に重きを置いて取り組みの方向性を示して、「持続可能で魅力ある漁業を目指して」の実現に向けて自然が持つ生物多様性や多面的機能を生かすことが重要であり、将来にわたり自然の恵みを享受できるよう、資源の維持や環境保全に取り組むことを、人的側面である漁業者に対してや、販売消費に取り組むことによる経済的側面でも漁業が持続して魅力ある産業として次の世代に引き継ぐことを意識して項目表記しています。これらに取り組む上で、重点的な項目として2点整理しております。
- ・1つ目は、センサスやアンケート結果にも見られるサケや、ニシン、ヒラメといった栽培漁業について、漁獲や収入の面でも極めて重要であり、資源維持や漁獲安定化に対する取り組みについて表記しています。また漁獲の安定化に関連して自然が持つ再生産能力の維持や資源枯渇することなく後世へ自然環境を継承するための環境対策も取り組みとして記載しています。一方、新たな視点としてアンケートでも多かった他地域でも研究されている魚類の陸上養殖や、これまでと異なる魚種が水揚げされるなどの環境変化への対応の必要性についても将来的な資源化も視野に入れた研究や検討も必要と考えて記載しています。ただ、これについては事務局としても具体のイメージは持ち合わせていませんので、今後漁業者や漁協、研究機関などの関係機関と連携し検討や研究を進める必要があると思います。もう一つの重点推進として、アンケート結果からも後継者を増やす対策として「収益の向上」が重要であり、直接販売や販路拡大を視野に入れた取り組みを記載しています。なお、事業推進にあたり漁業者や漁協等関連団体、関連事業者及び市や北海道などと連携協力して取り組むことで計画が実現するよう事業主体と支援協力を記載しています。

廣原委員長

- ・只今の漁業振興対策についてご意見等はありませんか。

和田委員

- ・前段の課題の抽出と整理の中の漁業就業者担い手確保に向けた現状と課題の部分で、(6)②に漁業者の育成とあわせて経営支援が示されていますが、その一方で41ページの漁業振興対策、45ページ(6)漁業就業者の確保の中に漁業経営の支援が文言としては入っているが、漁業経営は水揚げを伸ばす資源管理や環境保全と同時に経済的な面に対する支援も重要なことから経営支援についても項目を作って記載するべきと思います。それと、先ほど来の説明の中で指針という事で多くの振興対策が載っていますが、それ以外にももう少し実効性のあるような項目も入れてはどうかと考えます。

廣原委員長

- ・ある程度具体的なものも入れたら良いのではということですね。

和田委員

- ・ポイントを絞って目標に伴うように。

廣原委員長

- ・ある期間で振り返りが出来るような形でですね。

和田委員

- ・振り返りは当然必要だと思います。

廣原委員長

- ・重点目標を短いスパンで実現に向けて動きをといる部分について、事務局いかがでしょうか。

相原課長

- ・何度も話しているとおり、計画の性格的に具体的なものを盛り込むのは難しいと思いますが、年次でいろいろな取り組みを進める中では、当然市だけで何か決めて進めるわけではなく、漁協や漁業士とも協力しながら取り組みを行っていくことになると思います。その中で、今回は10年としましたが、5年をめどに中間での評価も当然必要と考えますので、それらを含めてどんな表現ができるかについて、今回の計画でできるか次への課題になるかという部分もありますが検討したいと思います

佐藤委員

- ・44ページ(4)地元水産物の消費・流通対策の内容を見ると水産物を販売する部分だけですが、市内の飲食店などでいろいろな地元食材を使ったメニュー作りに取り組んでもらい、広く消費者に美味しい食べ方やメニューを提供する事も重要だと思います。豊浦町で海産総選挙という水産物の選挙がありますが、一つの魚種をそれぞれの飲食店でメニュー開発してもらえば話題にもなるし、飲食店の皆さんは素晴らしい技術をお持ちなのでおいしく魚を食べる事に興味を持ってもらうなどに取り組んでいくことも大切ではないかと思います。

相原課長

- ・ありがとうございます。今の意見は素案の3ページにある他の振興関連計画も含めた産業振興計画に該当する内容だと思いますのでその辺も含めて記述したいと思います。

和田委員

- ・43ページ漁場環境の保全は必ずあるべき部分だと思います。前提になるのはもう少し広く自然環境を保全することだと思います。森、川、海はつながっているので植樹事業も行っています。自然環境保全の取り組みは一般的にも年々注目度が高まっていると感じています。我々漁業者が出来ることは、海浜清掃、漂流物の回収等があると思います。また、現在は海洋プラスチックの問題もあり、石狩市、漁業者が出来る行動は簡単ではないと思いますが海を汚さない、山にごみを捨てない等のPR活動は行えると思うので、これ以上悪化させないような取り組みは出来ると思います。漁場環境の保全の部分に自然環境の保全も計画に入れて頂きたいと強く思います。

相原課長

- ・表現が難しい部分もありますが、今計画から載せているSDGsの持続可能な開発目標の中に近い事も載っているので、各計画間で意識の共有を図りたいと思います。

廣原委員長

- ・植林は藻場造成にも関わってくる事なので①に記載するのが良いかと思います。

相原課長

- ・漁協女性部が中心となっている活動なので追加したいと思います。

和田委員

- ・小谷地区の広大な魚付きの森ゾーンに平成25年か平成26年から6年間、2,000から2,500本を植えています。翌年には全滅している。潮風の影響か手入れをしていないこともあるとは思いますが、育たずにごっかりしています。場所の提供はありがたいですが、平成20年から平成25年は石狩森林管理署と協定を結びサキン沢の奥に植えたものは河川敷で笹藪の中でも育っています。漁業としては植える場所を持っていないので植樹に適した場所の提供をお願いしたい。

相原課長

- ・場所について以前は国有林の敷地内に植えたこともありましたが。場所や植えた後の手入れの部分は相談する余地があると思います。

廣原委員長

- ・全体をとして何かありませんか。

野村委員

- ・4地元水産物の消費、流通対策に関し、個人的に石狩の水産物のブランド化が出来ないかと思ってい

ます。私の地元の八雲町ではブランドがありますので、石狩市でもブランドがあれば観光協会としても PR しやすいですし、冠があると業者が使う際にも目を引きやすく差別化も図られると思いますが難しいのでしょうか。

和田委員

- ・石狩湾漁協ではニシンについて世界基準の水産エコラベルの取得に向け申請手続きを進めており、1 月中には機関と面談して認証を取得したいと考えています。ニシンにネーミングをつけたいと考えています。エコラベルとは資源が維持可能な漁法であることや環境に配慮していること、管理が正しくなされていることの3つが審査基準となっています。ニシンは本州ではホッケなどの様に定番とはなっていないので加工、流通についても推進していかなければならなりません。認証を受けられれば多少高額でも購入してもらえなど魚価の向上にもつながるため PR を強化することも大切なので市にも協力していただき普及に向けて努力したいと思います。

相原課長

- ・計画に盛り込むことは難しいと思いますが、ブランド化については重要なことなので計画への位置付けについて検討したいと思います。

野村委員

- ・アンケートの結果資料を見て、後継者はいないのかと思っていたがそうではなかった。水産物のブランド化により石狩の知名度がアップして水産物の引き合いにつながれば収入の安定にもつながるのだと思います。観光協会のイベント等でも協力できる手段はあります。水産加工品や朝市は問合せが多く魅力的ですのでお互い協力していければと思います。

釣本委員

- ・産廃のゴミ袋が 500 円から 3,000 円に大幅に値上がりしました。ロープの残骸なども海から持ってきていますが処分されていないので対応を考えて頂きたい。

木村委員

- ・計画には現状と課題がありますが、いくつかでもクリアされているという肌感が漁業者にあまりないからアンケート結果にもつながっていると思います。

廣原委員長

- ・3 次計画では実行性があるものと常々あいさつの中でも言っていますが、半分でも実現できるよう策定していると思うので協力をお願いします。

鳴海委員

- ・計画どおりに進めばいいのだろうけど、地区特有の石狩、厚田、浜益にあったものに改善していけたらと思います。

伊藤委員

- ・3 ページの持続可能な地域を目指す産業振興の表は分かりやすくいいと思います。このテーマから枝分かれして出来ない原因をアンケートから探索して回収していればよかったのではと思います。担い手育成として家賃助成がありますが、この方法では継がせるのに積極的ではない様にも見えますし、マッチングして増やしていくことが必要であると思います。また、獲れた魚の付加価値を高めるのがブランドの確立だと思いますのでブランド確立に向けた取り組みの推進が必要だと考えます。

廣原委員長

- ・佐藤水産や観光協会がノウハウを持っていると思いますので協力しながら進めることも考えられます。

蛸谷委員

- ・一週間前までに資料の事前配布をお願いします。

3. その他

相原課長

- ・これまで貴重な意見ありがとうございます。次回に向けて身を引き締めたいと思います。今後の予定ですが、皆様から頂いた意見や修正も加味したものを次回の策定委員会においてパブリックコメントに向けた原案として確定し、パブリックコメントを経たのち最終案を来年2月下旬に予定している第4回の策定委員会で提示し承認いただければと思います。ついては、第3回の策定委員会を11月29日月曜日の14時から予定しますのでご多忙中とは存じますがご出席をお願いします。

4. 閉会

- ・省略

令和 3年12月16日 議事録確認
第3次石狩市漁業振興計画策定委員会

委員長

廣原 正康

